

平成22年度

坂町教育委員会事務点検・評価報告書

坂町教育委員会

目 次

教育委員会の点検・評価制度の概要	1
教育委員会の活動状況及び活動概要	2
点検評価の結果	
道徳教育の充実	10
学校施設の耐震化等の推進	11
確かな学力の向上	12
不登校対策の充実	13
外国語活動の充実	14
学習機会の提供	15
図書館の活用の増進	16
生涯スポーツの普及	17
町史の編さん	18
資料1 平成22年度坂町教育委員会 経営計画	
資料2 平成22年度坂町教育委員会 自己評価表	

教育委員会の点検・評価制度の概要

1 点検評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条により、教育委員会は平成20年4月から毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に報告するとともに、公表することが義務付けられました。

この報告書は、同法の規定の基づき、坂町教育委員会が行った点検評価の結果をまとめたものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 対象年度

平成22年度

3 点検評価の対象事業

点検・評価の対象は、坂町第4次長期総合計画(平成22年度～平成31年度)の基本計画に位置付けられている道徳心の高揚、教育環境の充実、生涯学習・スポーツの振興及び文化活動の振興の4事業で、平成22年度教育行政方針において、重要施策として位置付けて実施した9事業について点検評価を実施しました。(別紙資料1・2参照)

4 点検評価の方法

点検評価にあたっては、評価指標等を設定し、次頁の表のとおり4段階の評価としました。

区分	内 容
A	目標は十分達成された。
B	目標は達成された。
C	目標は達成できなかった。
D	目標は全く達成できなかった。

なお、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づく、「教育に関し学識経験を有する知見の活用」に関しては、広島大学大学院教育学研究科の教授 林 孝先生からご意見、ご助言をいただきました。

5. 評価委員の点検・評価

平成 22 年度においては、坂町第 4 次長期総合計画に基づく中期経営目標のもと、それに対応する教育行政方針を短期経営目標として設定しており、教育委員会事務点検・評価の重点化が従来に増して徹底された感があり点検・評価の趣旨に合致して好ましい。また、点検・評価項目は、大きく「学校教育」「生涯学習」の 2 領域において精選された各 4 項目から実施され、教育委員会が重点的に集中する施策がみてとれる。大きく 2 領域に分けて記述していきたい。

(1) 「学校教育」をめぐって

「道徳心の高揚・道徳教育の充実を図る」では、平成 21 年度の実績値を上回るものの、目標値には届いていないため評価結果は妥当といえる。特定の学年における評価結果が全体の評価結果を引き下げる結果となっているが、中学校における評価結果は 1 年間の取組の有効性を示すと思われる。中学校における取組と成果の関連についての深い考察に基づき、坂町独自の有効な手立てを特定し、集中すべき取組について検討いただきたい。

「教育環境整備の推進・学校施設の耐震化等の推進」では、計画的に取組が進捗しており、「目標は十分達成できた」との自己評価結果は妥当と判断できる。今後も引き続き、施策展開にあたって関係機関の動向に注視し、首長部局との綿密な摺り合わせのもと、児童生徒のための教育環境の整備に努めていただきたい。

「教育活動の充実」では、「確かな学力の向上」「不登校対策の充実」ともに、平成 21 年度の状況から大きく改善の図られた評価結果となっており、「目標は十分達成できた」との自己評価結果は妥当と判断できる。なお、「確かな学力の向上」の評価指標は年度によって変動も予想されるため、平成 22 年度対象児童生徒に特有の傾向ではなく、学力向上の取組施策の反映された成果であるのか検証を積み重ねていただきたい。この検証によってこそ今後継続すべき取組として意義あるものと同定できるし、新たに発展した取組施策への展望を開き、その取組施策に係る財政的な裏付けが得られる。その点を明らかにして、首長

部局により一層積極的にアピールしていただきたい。

「国際理解の推進・外国語活動の充実」では、平成 20・21 年度の外国人 ALT の配置による英語活動に引き続き、平成 22 年度では日本人講師と担任との TT による外国語活動に取り組み、「目標は十分達成できた」との自己評価結果を得ている。平成 22 年度の目標値の妥当性については、実績値(平成 21 年度)との対比が示されていないので判断しかねるが、小学校 6 年生の値をめぐって考察し、小学校における「外国語活動の充実」が中学校での教科「外国語(英語)」への接続に坂町独自の取組として提案していただけるよう、引き続いて平成 23 年度においても学校現場を支援する施策展開に期待したい。

(2)「生涯学習」をめぐって

「生涯学習の推進・学習機会の提供」では、平成 21 年度までの評価指標(事業の実施における講座参加者数の増加率・アウトプット)にかえて、「講座参加者の満足度調査」を評価指標としたため、既に平成 24 年度の目標値もクリアした結果となっている。昨年までの評価結果において「講座参加者数の増減に拘泥せず」と指摘してきたので、それにかえての指標と考えられる。しかし、この場合の「満足度」は満足の質ではなくて満足の量として、講座参加者の学習ニーズが講座の提供する内容等と一致したことを示すものであろうから、「学習機会の提供」のアウトプットとみることが妥当ではないか。また、申込人数が定員に達しなくて中止となる講座の存在は運営上の課題(学習ニーズとのミスマッチや広報の不足など)が考えられる。繰り返し指摘してきたように、事業を実施したことによって、すなわち、個人の能力や意欲に応じた学習機会の提供によって、住民の日常生活を豊かで潤いのあるものとした成果(アウトカム)を産出するものとして評価指標の設定を検討して欲しい。満足度においても質に注目することが考えられるであろう。例えば、講座の目標・内容に対応して、単なる知識・理解の増加にとどまらず、関心・意欲・態度の転換・増進、思考・判断の深化や進化などのポイントが考えられないだろうか。

また、「生涯学習環境、生涯学習推進体制の充実・図書館の活用の増進」においても、平成 21 年度に引き続き、取組の充実による量的整備の状況が窺われるものの、貸出利用者数の増加率を評価指標にして「目標は達成できなかった」との厳しい自己評価結果である。「図書館の活用の充実」のアウトプットとしての増加率のためだけでなく、今後においても、「親しみやすい図書館」の質的整備の充実に一層努めていただきたい。その質的整備の充実によって「図書館の活用の充実」を図りその成果(アウトカム)として何を求めるのか町民に提示していただきたい。そのアウトカムに寄与するためにも、例えば、生涯学習の入り口に立つ幼児・児童・生徒への図書館サービスの充実に、町内の保育所・保育園・小学校・中学校との連携に引き続き取り組んでいただきたい。また、明るい図書館の雰囲気作りに貢献している展示コーナーについては引き続き充

実させていただきたい。

「生涯スポーツの推進・生涯スポーツの普及」については、各種のスポーツ教室・スポーツ大会の開催だけでなく、各年齢層に応じた各種事業の推進や「ようよう坂町ウオーキング」の開催など、各種教室・大会参加者数を評価指標として「目標は十分達成できた」との自己評価結果は妥当と判断できる。今後においては、一歩進め、坂町町民にとって、生涯スポーツの推進・普及がどのような点において寄与するのか、アウトプットとしての参加者数から、生涯スポーツへの参加者の日常生活が健康で豊かな潤いのあるものとした成果（アウトカム）を産出するものとして評価指標の設定を検討して欲しい。

また、「地域文化の保存、継承・町史の編さん」では、編集作業予定の大幅変更もあり、「目標は全く達成できなかった」との自己評価である。計画通りの発刊を評価指標としたためであり、編集作業にあって膨大な聞き取り資料の存在が計画を遅延させたことに拘泥することなく、平成 20・21 年度の評価結果に引き続き、その活用方法への視点、すなわち、地域文化の保存と継承を図る町史を町民の生涯学習の資源として豊かな財産と捉える視点に着目して、今後の事業展開に大いに期待したい。

以上、各項目に即して点検評価の結果についての意見を述べた。最後に、報告書全般に関わって意見を述べ、今後期待したい点について指摘しておきたい。

平成 22 年度の自己評価にあたっては、冒頭に指摘した点に加え、平成 21 年度の自己評価以上に点検評価に至ったエビデンス（証拠）を示すことに努められており、点検評価は大きく進展されている。また、いわゆる P D C A サイクルの実働に向けて、点検評価を通じ次にどのような手だてを打つのか、中期・短期の経営目標のもとに、明確にするよう努めており、説得力のある点検評価報告書とするよう努められている。さらに、その P D C A のサイクルも早く回すこととなり、平成 23 年度のスムーズな施策の展開につながることを期待できる点検評価報告書となっていることにも敬意を表したい。

今後もさらに、それらの点に尽力いただきたいと思いますところであり、また、次の点についても、今一度、検討いただきたいと思います。第一に、事業展開を通じて得られた成果として、アウトカム（取組を通じて、例えば、児童生徒の成長という目標を達成したという成果）を追求していただきたいと思います。第二に、評価に至ったエビデンス（証拠）に掲げる数値目標として、成果指標（アウトカム）としての視点からの設定をより一層工夫していただきたいと思います。勿論、数値目標に馴染まない目標もある。質的にどのように変容したのかを分析し、目標に対して有効な施策であったかを検証するように期待したい。

最後に、坂町が特色をもつ事業施策について点検評価し、町民に積極的にアピールすること、また、学校教育の充実については、設置者としての事業展開

が学校現場による真摯な取組を通じて実現できることを踏まえ、設置者としての視点を明確にすることに努められて、財政的な裏付けを得ることができるよう、P D C A サイクルを実働させ、説得力のある点検評価報告書とすることをより一層期待したい。

評価委員

広島大学大学院教育学研究科

教授 林 孝

教育委員会の活動状況及び活動概要

1 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会委員

職名	性別	備考
委員長	男	元教育関係者
委員長職務代理者	男	自営業・保護者
委員	女	自営業
委員	女	保護者
教育長	男	元教育行政関係者

(2) 教育委員会会議の開催状況

定例会 12回、臨時会 2回

(3) 教育委員会会議での審議状況

議決の状況

議案番号	議案名	議決日
3	坂町立小・中学校の管理及び学校教育法の実施に関する規則の一部改正について	6月15日
4	平成23年度使用小学校教科用図書採択について	7月20日
5	坂町小・中学校自然災害防止等安全対策要綱の一部改正について	8月26日
6	坂町立小・中学校の学期制について	12月15日
1	坂町教育委員会委員長選挙について	2月4日
2	平成23年度坂町教育行政方針について	2月15日
3	坂町留守家庭児童会設置条例施行規則の一部改正について	2月15日

2 教育委員会活動の概要

(1) 各種会議への出席

会議名	出席者	月/日	場所
広島県市町教育長会議	教育長	4/15	広島市
広島県西部教育事務所管内市町教育長会議	教育長	5/27	海田町
全国町村教育長会定期総会並びに研究大会	教育長	5/19~21	東京都
西部教育事務所管内公立中学校長研究大会	教育長	6/25	広島市

中国五県町村教育長研究大会	教育長	8/19～20	島根県
広島県町教育長会研修会	教育長	10 / 2	広島市
広島県女性教育委員グループ研修	委員	11 / 4	熊野町
広島県市町教育委員会教育委員研修会	委員	11 / 17	広島市
広島県町教育長会臨時総会及び研修会	教育長	11/26～27	神石高原町
安芸郡教育長・小学校長合同研修会	教育長	1 / 14	広島市
第2回広島県市町教育長会議	教育長	1 / 25	広島市
臨時広島県市町教育長会議	教育長	3 / 7	広島市

(2) 議案以外の報告・協議状況

月 日	定例会における報告・協議内容
4月22日	<p>平成第1回広島県市町教育長会議の報告</p> <p>坂町行政機構図・部課別職員配置状況について</p> <p>平成22年度広島県西部教育事務所人事異動概要について</p> <p>坂小学校及び横浜小学校耐震補強等工事実施概要について</p> <p>体罰・セクシャルハラスメントに関する相談窓口設置について</p> <p>平成22年度学校教育課事務分掌について</p> <p>平成22年度生涯学習課事務分掌について</p> <p>平成23年度使用小学校教科用図書の採択基本方針について</p>
5月18日	<p>広島県教育長会の報告</p> <p>生徒指導上の諸問題について</p> <p>要保護及び準要保護等就学援助者の状況について</p> <p>環境教育カリキュラムに関する先進地視察について</p> <p>各小学校運動会について</p> <p>町制施行60周年記念行事について</p> <p>入学式における国旗掲揚及び国歌斉唱の実施状況について</p> <p>安芸郡中学校春季総合体育大会結果について</p> <p>耐震等工事に伴う安全管理に関する研修会実施について</p> <p>主幹教諭、指導教諭及び栄養教諭の配置について</p>
6月15日	<p>全教育委員の全国市町教育委員連合会並びに広島県市町教育委員会連合会功労者表彰受賞の報告</p> <p>6月議会定例会の報告</p> <p>平成22年度第1回教育長ミーティングについて</p> <p>平成22年度西部教育事務所管内公立小中学校計画訪問について</p> <p>坂小学校及び横浜小学校耐震補強等工事発注について</p> <p>第45回交通安全子ども自転車大会広島県大会について</p>

	<p>町制施行 60 周年記念行事について</p> <p>坂町小・中学校自然災害防止等安全対策要綱の一部改正について</p> <p>小・中学校の「知」「徳」「体」の状況報告について</p>
7月13日	<p>平成 21 年度教育委員会事務・点検評価について</p> <p>学期制の今後の方向性について</p> <p>平成 23 年度広島県公立小・中学校管理職選考について</p> <p>坂町歌について</p> <p>平成 22 年度第 1 回教育長ミーティングの報告</p> <p>平成 22 年度西部教育事務所管内公立小中学校計画訪問の報告</p> <p>平成 22 年度全国学力学習状況調査及び広島県「基礎・基本」定着状況調査の速報について</p>
7月20日	<p>坂町小・中学校自然災害防止等安全対策要綱の一部改正について</p>
8月26日	<p>坂町小・中学校自然災害防止等安全対策要綱の一部改正について</p>
9月21日	<p>平成 23 年度広島県公立小・中学校管理職選考結果（一次）について</p> <p>9 月議会定例会の報告</p> <p>二学期制について</p> <p>平成 21 年度坂町教育委員会事務点検・評価報告書について</p> <p>平成 22 年度坂町教育委員会経営計画について</p> <p>平成 23 年度広島県教職員人事異動方針について</p> <p>小学校社会科副読本の改定について</p> <p>平成 22 年度広島県「基礎・基本」定着状況調査結果、全国学力学習状況調査結果について</p> <p>町制施行 60 周年記念坂町海外研修事業について</p> <p>平成 22 年度教育委員及び町内小・中学校教職員研修の実施について</p>
10月19日	<p>二学期制について</p> <p>平成 22 年度坂町教育委員会経営計画について</p> <p>平成 23 年度教育行政方針について</p> <p>平成 22 年度教育委員会関係者表彰状況について</p> <p>平成 22 年度教育委員及び町内小・中学校教職員研修について</p>
11月16日	<p>小野委員長秋の叙勲受章について</p> <p>二学期制の今後の方向性について</p> <p>平成 23 年度教育行政方針について</p>
12月15日	<p>小野修三氏瑞宝双光章受章祝賀会開催について</p> <p>12 月議会定例会の報告</p> <p>坂町立小・中学校の二学期制について</p>

	平成 23 年度教育行政方針について 平成 23 年坂町成人式について
1 月 18 日	学期制の今後について 教職員の人事の状況について 平成 23 年度教育行政方針について 平成 23 年坂町成人式の報告
2 月 15 日	学期制について 教員の代員について
3 月 16 日	3 月議会定例会の報告 平成 23 年度教育行政方針について 子ども読書活動推進計画について

(3) 教育委員の学校訪問

訪問日	訪問先	内 容
9 月 21 日	横浜小学校	学校長による学校経営方針について 授業参観及び意見交換

平成 22 年度 点検評価票

中期経営目標	道徳心の高揚
短期経営目標	道徳教育の充実を図る。

1 短期経営目標（具体）

道徳教育の要である道徳の時間の指導方法を工夫し、児童生徒の心に響く授業を展開することにより、道徳性の育成を図る。

2 取組・方策

（1）坂町道徳教育推進協議会（年間7回開催）

各小・中学校の道徳教育推進教師を対象に、授業交流・研修報告・模擬授業等を行い、指導力の向上に努めた。

（2）道徳の授業公開（全小・中学校公開）

各小・中学校が道徳の授業を保護者・地域に積極的に公開し、学校・家庭・地域の連携による道徳教育の推進に努めた。

（3）道徳教育に関する児童生徒意識調査（年間2回実施）

全児童生徒を対象に道徳教育に関する意識調査を実施して、授業改善に努めた。

3 評価

評価指標	道徳の時間の児童生徒意識調査（道徳の時間が好き）
実績値（平成21年度）	75%
目標値（平成22年度）	80%
総合評価	C

「道徳の時間の勉強は好きだ」と肯定的に回答した児童・生徒の割合

	小4年	小5年	小6年	中1年	中2年	中3年	全体
6月実施	87.5%	88.5%	67.5%	84.9%	69.7%	62.0%	78.3%
2月実施	70.3%	86.1%	51.2%	84.4%	85.7%	86.6%	77.3%

小学校4・6年生以外の学年では、目標を達成したが、全体では達成できなかった。

他学年に比べ、小学校4・6年生の値が下がったことは課題であり、分析が必要である。

4 改善策

文部科学省指定校であった坂中学校の研究成果を各小学校に普及する。

道徳の授業をする教員は、年間1本は、自作資料を開発することで、指導力の向上を図る。

平成 22 年度 点検評価票

中期経営目標	教育環境整備の推進
短期経営目標	学校施設の耐震化等を推進する。

1 短期経営目標（具体）

学校施設の耐震化を推進するとともに、耐震化に併せた校舎等の改修及び小学校における太陽光発電設備の整備を実施する。

2 取組・方策

整備内容

（坂小学校）

- ・ 昭和 43 年建築校舎の耐震補強及び外部の改修
- ・ 屋内運動場の耐震補強及び外部の改修
- ・ 昭和 59 年建築校舎内部の改修
- ・ 太陽光発電設備の設置（20KW）

（横浜小学校）

- ・ 西校舎の耐震補強及び外部の改修
- ・ 東校舎の耐震補強及び外部の改修
- ・ 太陽光発電設備の設置（20KW）

3 評価

評価指標	耐震補強他工事の実施済校の割合
実績値（平成 21 年度）	
目標値（平成 22 年度）	耐震補強他工事の実施校 50%
総合評価	A

坂町立小・中学校 4 校のうち、計画通り 2 校を整備し、耐震補強他工事の実施校の割合 50% を達成した。

残る 2 校については、平成 22 年度補正予算に計上した。

4 改善策

来年度、残る 2 校の整備を実施する。

平成 22 年度 点検評価票

中期経営目標	教育活動の充実
短期経営目標	確かな学力の向上を図る。

1 短期経営目標（具体）

各種学力調査結果を分析し、指導内容や指導方法等を改善し、個に応じたきめ細かな指導を行い、確かな学力の向上を図る。

2 取組・方策

（1）学力調査の実施

各種学力調査を行い、結果を分析し、授業改善に生かした。

広島県「基礎・基本」定着状況調査（6月8日実施、対象：小学校5年の国・算、中学校2年の国・数・英）

坂町標準学力調査（坂小学校、小屋浦小学校1月26日、横浜小1月27日、坂中学校4月8日、9日実施）

（2）中学校への非常勤講師を配置

中学校の特定教科に非常勤講師を配置し、基礎学力の向上に努めた。

・英語 748 時間 ・数学 352 時間 ・理科 836 時間

（3）小学校において習熟度別学習、指導方法の工夫改善及び少人数指導などを実施した。

小6少人数指導

・坂小学校 1、125 時間 ・横浜小学校 1、164 時間

指導方法工夫改善

横浜小学校 対象学年：2～5 学年 算数 実施時間：833 時間 / 年間

3 評価

評価指標	広島県「基礎・基本」定着状況調査
実績値（平成21年度）	小：県平均を下回った。中：県平均を上回った。
目標値（平成22年度）	県平均を上回る。
総合評価	A

平成 22 年度広島県「基礎・基本」定着状況調査結果（広島県教育委員会）

学年	国語	算数・数学	英語
小学校5年	85.2 (+2.9)	86.7 (+7.7)	/
中学校2年	83.1 (+5.7)	78.4 (+5.8)	88.8 (+18.6)

() は広島県平均との比較

4 改善策

習熟度別学習など個に応じた指導を推進する。

家庭学習の定着を図る。

坂町学力推進協議会（教頭・教務主任研修）を充実させる。

平成 22 年度 点検評価票

中期経営目標	教育活動の充実
短期経営目標	不登校対策を充実する。

1 短期経営目標（具体）

生徒指導主事を中心とした生徒指導体制を整え、児童生徒理解を深め、不登校児童生徒を減少させる。

2 取組・方策

（1）坂町生徒指導連絡協議会の開催（毎月1回、計10回）

各小・中学校の生徒指導主事を対象に、授業観察・情報交流等を行い、生徒指導方針を共通理解することにより、生徒指導体制を強化した。

（2）不登校対策実践指定校への訪問指導（坂小学校、坂中学校ともに毎月2回、計24回）

県教委の指定校である坂小学校、坂中学校を月2回以上訪問し、授業観察や生徒指導上の課題等の聴取を行い、不登校対策の指導助言を行った。

（3）児童生徒の欠席状況調査（月1回）

児童生徒の欠席状況を把握し、欠席日数が多い児童生徒に対して、早期対応を行うことにより、未然防止に努めた。

3 評価

評価指標	不登校児童生徒数の割合
実績値（平成21年度）	小学校 0.26% [県平均 0.38%] 中学校 3.09% [県平均 2.89%]
目標値（平成22年度）	小学校 0.15%、 中学校 2.70%
総合評価	A

平成 22 年度不登校児童生徒

	不登校生徒数	割合
小学校	0人	0%
中学校	5人	1.5%

4 改善策

積極的生徒指導による未然防止の充実を図る。

アンケート等により児童生徒の実態把握を行い、不登校傾向児童生徒への早期対応に努める。

スクールカウンセラーの活用や専門機関との連携を強化する。

平成22年度 点検評価票

中期経営目標	国際理解教育の推進
短期経営目標	外国語活動の充実を図る。

1 短期経営目標（具体）

英語に堪能な日本人講師を活用し、外国語に対する児童の関心・意欲を高める。

2 取組・方策

(1) 坂町外国語活動研修（年間4回開催）

各小学校の外国語活動担当教師を対象に、授業研究・講話等を行い、指導力の向上に努めた。

(2) 日本人講師と担任による外国語活動の実施（年間35時間/学年）

小学校5・6年の外国語活動の授業を英語に堪能な日本人講師と担任によるTTで実施し、コミュニケーション能力の素地を養った。

(3) 外国語活動に関する児童意識調査（年間2回実施）

小学校5・6年生を対象に外国語活動に関する意識調査を実施して、授業改善に努めた。

3 評価

評価指標	外国語活動の児童意識調査（外国語活動の時間が好き）
実績値（平成21年度）	
目標値（平成22年度）	80%
総合評価	A

「外国語活動の授業が好きだ」と肯定的に回答した児童の割合

	小学校5年	小学校6年	全体
10月実施	92.8%	83.2%	87.7%
2月実施	92.0%	77.0%	84.4%

4 改善策

外国語活動担当教師の指導力向上のための研修（外国語活動研修）を更に充実する。
視聴覚機器を活用し、児童の興味・関心を高める。

平成 22 年度 点検評価票

中期経営目標	生涯学習の推進
短期経営目標	学習機会の提供に努める。

1 短期経営目標（具体）

学習内容が固定化しないように、現代的課題も組み入れ、参加者の満足度の高い講座を開催する。

2 取組・方策

（1）開催講座の実施状況

・成人対象講座

51 講座を企画（うち 10 講座は申込人数が定員に達しなかったため中止）

・家庭対象講座

すくすく学級前期・後期 計 16 回開催(227 人参加)

・高齢者対象講座

いきいき大学 9 回(137 人参加)

ことぶき学級 6 回(132 人参加)

（2）学習機会の情報発信

開催講座の情報を坂町広報誌、ホームページに掲載し、ポスター、チラシを各ふれあいセンターや公民館に掲示した。

チラシについては、町内で開催されるイベント会場等でも配布した。

（3）自主グループ設立に対する支援

2 つの自主グループが設立された。

3 評価

評価指標	講座参加者の満足度調査
実績値（平成 21 年度）	-
目標値（平成 22 年度）	70%
総合評価	A

アンケートにおける講座の満足度調査においては、「とても満足」及び「満足」と回答した参加者が 95.9%であった。（ただし、一部の講座については未実施。）

また、講座の開催状況については、講座への参加申込が定員に達しなかったため、中止となった講座が 10 講座ある。

4 改善策

平成 24 年度の目標値をクリアしたため、次年度は新たな評価指標を設定する。

中止となる講座がないように、講座の企画内容等について検討する。

アンケートを引き続き実施し、講座の企画内容等の充実に生かす。

平成 22 年度 点検評価票

中期経営目標	生涯学習環境、生涯学習推進体制の充実
短期経営目標	図書館の活用の増進に努める。

1 短期経営目標（具体）

誰もが気軽に利用できるよう利用者に応じた図書館サービスに努め、図書館の活用の増進を図る。

2 取組・方策

- (1) 新規図書等の購入については、司書を中心に計画的に行った。
 平成 23 年 3 月末現在蔵書数等
 一般書 34,361 冊(1,666 冊)・児童書 16,719 冊(1,509 冊)・視聴覚資料 1,726 点(101 点)
 () は今年度購入冊数等
- (2) 各小学校・中学校・高等学校に「図書館だより」を配信した。
 小学校(2回) 中学校・高等学校(1回)
- (4) 子ども読書活動推進計画を策定した。
- (5) 読書ボランティアによる読みきかせを 22 回開催し、207 人の参加があった。
- (6) 図書館の活用を目的として、図書館利用講座「金子みすゞの童謡を読む」を開催した。
- (7) 図書に関する展示コーナーを開設し、親しみやすい雰囲気作りを行った。

3 評価

評価指標	図書等貸出利用者数
実績値(平成 21 年度)	19,389 人
目標値(平成 22 年度)	19,780 人(2%増)
総合評価	C
図書等貸出利用者数は、19,676 人で、対 21 年度比 1.5%の増に留まった。	

4 改善策

図書等貸出利用者数が横ばい状態である原因把握のため、数値による分析を行う。
 図書館の利用促進のため、図書館利用講座及びイベントを開催する。
 定期的に図書館だよりを配信し、内容の充実を図る。
 保育所、保育園にも「図書館だより」を配信する。
 図書館の利用について、乳幼児(保護者)に向けても情報発信をする。(子育てオープンスペースばおばお・すくすく学級・子育て支援センター・乳幼児健診等を活用)
 広島県立図書館インターネット予約貸出に係る条件を町内在住の人から、坂町立図書館の貸出カード登録者に範囲を広げ、図書館利用の促進に努める。

平成 22 年度 点検評価票

中期経営目標	生涯スポーツの推進
短期経営目標	生涯スポーツの普及に努める。

1 短期経営目標（具体）

一人でも多くの町民が生涯スポーツに参加できるよう、各年齢層に応じた各種事業を推進する。

2 取組・方策

- (1) 各種教室・大会を様々な方法で情報発信した。
- 坂町広報誌への掲載 ・町内体育大会（10月）体操教室（5月から10月）水泳教室（6月）の開催記載
 - ・町内体育大会（10月）体育協会各競技部の大会等各種大会結果掲載
 - チラシの配付 ・体操教室、水泳教室の案内を保育所（園）、小学校を通じ配付
 - ・町内各施設にて「ようよう坂町ウオーキング」のチラシ配付
 - 住民協への案内 ・町民会議球技大会、コミュニティースポーツ大会案内
- (2) 各年齢層に応じた各種事業を推進した。
- 幼児対象 ・親子ふれあい体操教室・幼児体操教室
 - 小学生対象 ・1年生水泳教室・2、3年生水泳教室・スポーツキッズフェスティバル
 - 小中学生対象 ・シンクロナイズドスイミング教室
 - 全町民対象 ・町内体育大会・町民会議球技大会
- (3) ようよう坂町ウオーキングを開催した。（産学官民連携実施）
- 4月3日 桜満開ウオーク（森山・横浜公園コース）
 - 6月6日 ベイサイドビーチ見学ウオーク（ウオークベイサイド遊歩道コース）
 - 7月10日 ナイトウオーク（森山ジョギングコース）
 - 11月21日 第1回悠々ウオーク（2キロ、5キロ、10キロコース）
- (4) 坂町体育指導委員及び坂町体育協会等の協力のもと、各種行事を開催した。
- 町内体育大会（10月3日）スポーツキッズフェスティバル（12月12日）
 - 町民会議球技大会（3月12日）
 - 町内駅伝競走大会・コミュニティースポーツ大会（3月20日）

3 評価

評価指標	各種教室・大会参加者数
実績値（平成21年度）	1,846人
目標値（平成22年度）	1,880人（2%増）
総合評価	A

各種教室・大会参加者数は、2,390人（29%増）であった。町制施行60周年記念事業として開催した町内体育大会が、参加者増の要因と考えられる。

町民会議球技大会等、他の大会については、軒並み参加者が減少している。

4 改善策

町内体育大会以外の大会においても、大会開催の広報を強化し参加者増に努める。

平成 22 年度 点検評価表

中期経営目標	地域文化の保存、継承
短期経営目標	町史の編さんに取り組む。

1 短期経営目標（具体）

第二巻目「生活文化編」及び第三巻目「通史（現代）・地理編」を発刊する。

2 取組・方策

<p>(1) 第二巻目「生活文化編」について</p> <p>【本編】 全 6 章 27 項 400 頁構成のところ、24 項（80%）を執筆した。</p> <p>【資料編】 800 頁分を 400 頁分に調整・編集しているところである。</p> <p style="padding-left: 40px;">校正については、3 月末で 5 校予定中 3 校が終了した。</p> <p>(2) 第三巻目「通史（現代）・地理編」について（7 章構成予定）</p> <p style="padding-left: 40px;">4 章のうち 1 章を 12 月に入稿した。他の 3 章は未入稿である。</p> <p style="padding-left: 40px;">3 章のうち 3 章を 6 月に入稿し、3 月末に初校正を済ませた。</p> <p>(3) その他</p> <p style="padding-left: 40px;">町史編さん委員会 4 月 26 日（月）開催 町民センター</p> <p style="padding-left: 40px;">坂町史刊行委員会 2 月 18 日（金）開催 町民センター</p> <p style="padding-left: 40px;">坂町史刊行協力者会議 3 月 10 日（木）開催 町民センター</p>

3 評価

評価指標	町史の発刊計画
実績値（平成 21 年度）	第二巻目「生活文化編」の資料収集及び資料の編集作業
目標値（平成 22 年度）	第二巻目「生活文化編」の発刊、第三巻目「通史（現代）・地理編」の発刊
総合評価	D

第二巻目「生活文化編」を発刊予定であったが、聞き取り資料の増加に伴い、編集・校正作業が増え、発刊できなかった。

第三巻目「通史（現代・地理編）」も発刊予定であったが、資料収集・執筆が遅れ、発刊できなかった。

4 改善策

<p>編別の行程表を作成し、執筆及び校正作業の進捗状況について、執筆者、出版社と定期的に確認をとり、平成 23 年度内に発刊する。</p>

平成 22 年度坂町教育委員会 経営計画

ミッション

「坂町第 4 次長期総合計画」における施策「夢や希望を育み、絆をつくる人づくり」の推進とともに、平成 22 年度教育行政方針に基づく教育行政を推進する。

ビジョン

【町民像】

学校教育では、坂町の将来を担う子ども一人ひとりが、「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」を身につける。

生涯学習では、子どもから大人まで町民一人ひとりが、自らの個性や能力を最大限に発揮し夢や希望・生きがいを持つ。

【教育委員会像】

コンプライアンス（法令と倫理の遵守）に基づく公教育を推進する。

P D C A のマネジメントサイクルによる業務遂行を目指す。

報告・連絡・相談などによる組織的な対応を目指す。

すばやい対応を目指す。

現状分析

【学校教育】

生きる力の基盤として、道徳性の育成に、学校・家庭・地域が一体となり取り組んでいる。児童生徒の安全確保及び地域住民の避難場所確保のため、学校施設の耐震化等の推進は喫緊の課題である。

基礎学力の定着に取り組んでいるが、小学校は、広島県「基礎・基本」定着状況調査において、平均通過率が平成 19 年度から広島県平均を下回っている。

中学校の不登校生徒の割合が県平均より高い。

新学習指導要領の実施に向け、平成 21 年度から外国語活動を実施しているが、引き続き指導方法を充実する必要がある。

【生涯学習】

住民への学習の場の提供は行われているが、学習の内容が固定化している傾向にある。

図書等貸出利用者数が近年、横ばい状態である。

生涯スポーツについては、各種教室・大会を開催しているが、限られた住民の参加傾向がある。

町史編さんについては、「生活文化編」の発刊が遅れている。

目標及び取組

	中期経営目標 (第4次長期総合計画)	短期経営目標 (平成22年度 教育行政方針)	具体的な取組・方策	
学校教育	道徳心の 高揚	道徳心の高揚	道徳教育の充実 を図る。	指導の工夫により、児童生徒の心に響く道徳の時間を展開する。
	教育環境 の充実	教育環境整備の 推進	学校施設の耐震 化等を推進する。	学校施設の耐震化を推進するとともに、耐震化に併せた校舎等の改修及び小学校における太陽光発電設備の整備を実施する。
		教育活動の充実	確かな学力の向 上を図る。	各種学力調査を行い、結果を分析し、授業改善に生かし、児童生徒が分かる授業を行う。
			不登校対策を充 実する。	生徒指導主事を中心とした生徒指導体制を整え、児童生徒理解を深める。
国際理解教育の 推進	外国語活動の充 実を図る。	英語に堪能な日本人講師を活用し、外国語活動に対する児童の関心・意欲を高める。		
生涯学習	生涯学習 ・スポー ツの振興	生涯学習の推進	学習機会の提供 に努める。	開催講座の学習プログラムの見直しを行う。 学習機会を様々な方法で情報発信する。 自主グループの設立を支援する。
		生涯学習環境、 生涯学習推進体 制の充実	図書館の活用の 増進に努める。	図書等貸出利用者数が横ばい状態の原因分析を実施する。 分析を基に蔵書を整理する。 図書館の活用を様々な方法で情報発信する。町内の保育所・保育園・小中学校・高等学校に案内を配付する。 子ども読書活動推進計画を策定する。 読書ボランティアによる読み聞かせを推進する。
		生涯スポーツの 推進	生涯スポーツの 普及に努める。	各種教室・大会を様々な方法で情報発信する。 各年齢層に応じた各種事業を推進する。 産学官民連携でウォーキングに取り組む。 坂町体育指導委員及び坂町体育協会等の協力のもと、各種行事を開催する。
文化活動 の振興	地域文化の保 存、継承	町史の編さんに 取り組む。	第二巻目「生活文化編」を発刊する。 第三巻目「通史(現代)・地理編」を発刊する。	

平成 22 年度坂町教育委員会 自己評価表

	中期経営目標 (第 4 次長期総合計画)		短期経営目標 (平成 22 年度教育行政方針)	評価項目	評価指標	実績値				目標値				評価 (自己評価の結果)	改善策
						平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度		
学校教育	道徳心の高揚	道徳心の高揚	道徳教育の充実を図る。	指導の工夫により、児童生徒の心に響く道徳の時間を展開する。	道徳の時間の児童生徒意識調査(道徳の時間が好き)	75%	80%	83%	85%	C	78.3%(6月) 77.3%(2月)	・年間 1 本の自作資料の開発等			
	教育環境の充実	教育環境整備の推進	学校施設の耐震化等を推進する。	学校施設の耐震化を推進するとともに、耐震化に併せた校舎等の改修及び小学校における太陽光発電設備の整備を実施する。	耐震補強他工事の実施済校の割合	-	50%	100%	-	A	50%	・来年度、残る 2 校の整備実施			
		教育活動の充実	確かな学力の向上を図る。	各種学力調査を行い、結果を分析し、授業改善に生かし、児童生徒が分かる授業を行う。	広島県「基礎・基本」定着状況調査	(小)県平均を下回った。 (中)県平均を上回った。	県平均を上回る。	県平均を 3 ポイント上回る。	県平均を 5 ポイント上回る。	A	県平均を大幅に上回った。	・坂町学力推進協議会の充実 ・個に応じた指導の推進等			
			不登校対策を充実する。	生徒指導主事を中心とした生徒指導体制を整え、児童生徒理解を深める。	不登校児童生徒数の割合	(小)0.26% [県平均0.38%] (中)3.09% [県平均2.89%]	0.15%	0%	0%	A	(小)0% (中)1.5%	・アンケート等の実態把握による早期対応等			
		国際理解教育の推進	外国語活動の充実を図る。	英語に堪能な日本人講師を活用し、外国語活動に対する児童の関心・意欲を高める。	外国語活動の児童意識調査(外国語活動の時間が好き)	-	80%	85%	90%	A	87.7%(10月) 84.4%(2月)	・外国語活動研修の充実等			
生涯学習	生涯学習の推進	学習機会の提供に努める。	開催講座の学習プログラムの見直しを行う。学習機会を様々な方法で情報発信する。自主グループの設立を支援する。	講座参加者の満足度調査	-	70%	75%	80%	A	95.9%	・平成 24 年度の目標値をクリアした。				
	生涯学習・スポーツの振興	生涯学習環境、生涯学習推進体制の充実	図書館の活用の増進に努める。	図書等貸出利用者が横ばい状態の原因分析を実施する。分析を基に蔵書を整理する。図書館の活用を様々な方法で情報発信する。町内の保育所・保育園・小中学校・高等学校に案内を配付する。子ども読書活動推進計画を策定する。読書ボランティアによる読み聞かせを推進する。	図書等貸出利用者数	19,389 人	19,780 人 (2%増)	19,970 人 (3%増)	20,160 人 (4%増)	C	19,676 人 (1.5%増)	・乳幼児保護者への情報発信 ・図書館利用講座及びイベントの開催等			
		生涯スポーツの推進	生涯スポーツの普及に努める。	各種教室・大会を様々な方法で情報発信する。各年齢層に応じた各種事業を推進する。産学官民連携でウォーキングに取り組む。坂町体育指導委員及び坂町体育協会等の協力のもと、各種行事を開催する。	各種教室・大会参加者数	1,846 人	1,880 人 (2%増)	1,900 人 (3%増)	1,920 人 (4%増)	A	2,390 人 (29%増)	・大会開催の広報の強化			
	文化活動の振興	地域文化の保存、継承	町史の編さんに取り組む。	第二巻目「生活文化編」を発刊する。第三巻目「通史(現代)・地理編」を発刊する。	町史の発刊計画	第二巻目の資料収集及び資料の編集作業	第二巻目の発刊 第三巻目の発刊	第四巻目「通史(考古～近代)編」の発刊	-	D	第二巻目・第三巻目とも発刊できなかった。	・作業の進捗状況の定期的な確認			